

令和6年用ぶどう(大粒種)病害虫防除基準

発行：JAさがえ西村山・さがえ西村山大粒ぶどう部会

- 農薬を使用する際は、農薬の使用基準を遵守し、適正に使用してください。
- 農薬の使用基準は、農薬容器のラベルに記載されています。使用に際しては、ラベルをよく読んで確認してください。
- この基準は、令和5年10月1日現在の農薬登録内容に基づき作成しています。登録内容に変更が生じた時は、変更された内容に準じて使用してください。

散時	布期	適病	用害	薬剤名及び濃度(水100ℓ当たり薬量)		収穫前使用回数	総使用回数	散布量	注	意	事	項	防	除
				露地栽培	雨よけ・無加温ハウス栽培									
①	休眠前	晩腐病、黒とう病	1. ペフラン液剤25㉔ 250倍(400ml)		1. ラビキラー乳剤㉔ 300倍(333ml)	1. 休眠期	1回	200ℓ	1. 雨よけ・無加温ハウス栽培で、褐斑病が多い園地では、ペフラン液剤25㉔250倍(休眠期、1回)を散布する。 2. 越冬病害虫(褐斑病)の発生が多い園地では、石灰硫黄合剤20倍(発芽前、一)を散布してもよい。但し、前回散布(①)から7～10日間隔をあけて散布する。					散布日 月日 散布量 ℓ
			2. ラビキラー乳剤 300倍(333ml)㉔	1. ラビキラー乳剤㉔ 300倍(333ml)	発芽前(休眠期)	2回以内								
②	展葉初期	黒とう病	1. デランフロアブル㉔ 1,000倍(100ml)	1. デランフロアブル㉔ 1,000倍(100ml)	落弁期まで(但し、収穫75日前まで)		2回以内	250ℓ	1. フタテンヒメヨコバイ(クロヒメゾウムシ)が多い園地では、サイアノックス水和剤1,000倍(21日前まで、2回以内)を加用する。 2. 中山間地でコガネムシ類が多い園地ではアディオン水和剤2,000倍(7日前まで、5回以内)を散布する。					散布日 月日 散布量 ℓ
③	5月下旬	晩腐病	1. 展着剤(ハイテンパワー) 10,000倍(10ml)	1. 展着剤(ハイテンパワー) 10,000倍(10ml)			2回以内	250ℓ	1. 黒とう病・うどんこ病の多発園地では、マネージDF4,000倍(21日前まで、3回以内)を加用する。 2. クビアカスカシバ対策としてスタークル顆粒水溶剤(幼果期まで但し、収穫30日前まで、1回)を水に溶かして主幹部にハケで塗布する。					散布日 月日 散布量 ℓ
			2. ソーベックエニベル顆粒水和剤 750倍(133g)	2. ソーベックエニベル顆粒水和剤 750倍(133g)	45日前まで	2回以内								
④	6月上旬	灰色かび病、晩腐病	1. 展着剤(ハイテンパワー) 10,000倍(10ml)	1. 展着剤(ハイテンパワー) 10,000倍(10ml)			2回以内	300ℓ	1. うどんこ病、黒とう病、灰色かび病が多い園地では、スイッチ顆粒水和剤に替えてオーシャインフロアブル2,000倍(7日前まで、2回以内)を使用してもよい。 2. 雨が多い場合は灰色かび病対策として、次の薬剤のいずれかを単用散布する。 ・オンリーワンフロアブル 2,000倍(前日まで、3回以内) ・フルピカフロアブル 2,000倍(収穫30日前まで、2回以内) 3. コウモリガの発生が見られる園地では、見つけしだい捕殺し、幹周辺の清掃や除草を行う。また、ガットサイドS1.5倍(幼虫喰入期直前～喰入初期、但し収穫21日前まで、2回以内)を主幹部に塗布する。					散布日 月日 散布量 ℓ
			2. スイッチ顆粒水和剤 2,000倍(50g)	2. スイッチ顆粒水和剤 2,000倍(50g)	30日前まで	2回以内								
⑤	7月上旬	べと病	1. 展着剤(ハイテンパワー) 10,000倍(10ml)	1. 展着剤(ハイテンパワー) 10,000倍(10ml)			3回以内		1. うどんこ病、黒とう病、灰色かび病が多い園地では、スイッチ顆粒水和剤に替えてオーシャインフロアブル2,000倍(7日前まで、2回以内)を使用してもよい。 2. 雨が多い場合は灰色かび病対策として、次の薬剤のいずれかを単用散布する。 ・オンリーワンフロアブル 2,000倍(前日まで、3回以内) ・フルピカフロアブル 2,000倍(収穫30日前まで、2回以内) 3. コウモリガの発生が見られる園地では、見つけしだい捕殺し、幹周辺の清掃や除草を行う。また、ガットサイドS1.5倍(幼虫喰入期直前～喰入初期、但し収穫21日前まで、2回以内)を主幹部に塗布する。					散布日 月日 散布量 ℓ
			3. ランマンフロアブル 2,000倍(50ml)		14日前まで	3回以内								

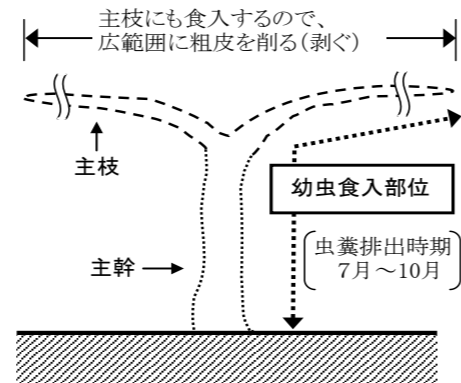
※小粒種(デラウェア)と大粒種で、農薬使用基準が異なる場合があるため、小粒種と大粒種を混植している園地では飛散等に注意する。特に使用時期が異なる農薬(スミチオン水和剤40)を使用する際は注意する。

耕種的防除

全般	1. 適切な肥培管理等により、樹勢を健全に保つ。 2. 園地の角など薬剤が到達しにくい部分や混み合っている部分の枝はせん除し、薬液が隅々まで到達しやすいようにする。 3. 病害虫は樹上の粗皮や芽の付近に越冬するものが多いので、効率防除を図るため、休眠期防除前に粗皮削りを行なう。
晩腐病	1. 施設栽培を導入し、6月中旬までに被覆を行なう。 2. 休眠期に房の取り残し部分、巻ひげ及び結果母枝の枯死部分などの除去を徹底する。
褐斑病	1. 休眠期に園内の清掃(落葉処理)、粗皮削りを行なう。

クビアカスカシバ対策(右図参照)

- 春季に粗皮削りを必ず行ない、加害を受けた虫糞排出箇所がすぐ分かるようにする。幼虫食入部位は広範囲に渡るので、粗皮削りは主幹部だけでなく主枝部まで行なう。
- 幼虫による虫糞排出は7月中旬頃から見られるので、園内をよく見回り早期発見に努める。特に被害痕のある樹は繰り返し加害を受けやすいので注意して観察する。
- 幼虫は秋になると被害部直下の比較的浅い(深さ5～10cm)土中にアーモンド形の土まゆをつくり、その中で越冬するので、被害部の直下1m四方程度を土まゆを露出させるようレーキ等がかくはんする。



山形県農林水産部原図

散時	布期	適病	用害	薬剤名及び濃度(水100ℓ当たり薬量)		収穫前使用回数	総使用回数	散布量	注	意	事	項	防	除	
				露地栽培	雨よけ・無加温ハウス栽培										使用回数
⑥	7月中旬	黒とう病、晩腐病	1. ジベレリン 25ppm	1. ジベレリン 25ppm	1. ペンコゼブフロアブル 1,000倍(100ml)	1. ペンコゼブフロアブル 1,000倍(100ml)	45日前まで	2回以内	200ℓ	1. 無核果促進のため、ストマイ液剤20,000倍(満開予定日の14日前～開花始期1回)を果房に散布する。 2. 摘芯の代替処理として、フラスター液剤を下記の通り使用してもよい。但し、伸長が旺盛な場合は摘芯を実施する。				散布日 月日 散布量 ℓ	
			2. フルメット 2～5ppm	2. フルメット 2～5ppm											
⑦	8月中旬	べと病	1. オンリーワンフロアブル 2,000倍(50ml)	1. オンリーワンフロアブル 2,000倍(50ml)	2. アーデントフロアブル 2,000倍(50ml)	2. アーデントフロアブル 2,000倍(50ml)	前日まで	4回以内	200ℓ	1. クビアカスカシバ発生園ではロビンフッド(前日まで、5回以内)を樹幹、樹枝の食入孔にノズルを差し込み噴射する。 2. ペンコゼブフロアブルに替えてストロビードライフフロアブル3,000倍(14日前まで、3回以内)を使用してもよい。 3. べと病が多い園地では、レーバスフロアブル2,000倍(7日前まで、3回以内)を加用する。 4. 袋かけ前は果粉溶脱しやすいので注意する。 5. ハダニ類の発生の多い園地ではダニコングフロアブル2,000倍(前日まで、1回)を加用する。				散布日 月日 散布量 ℓ	
			2. モスピラン顆粒水溶剤㉔ 2,000倍(50g)	2. モスピラン顆粒水溶剤㉔ 2,000倍(50g)	14日前まで	3回以内									
⑧	8月下旬	べと病	1. ジベレリン 25ppm	1. ジベレリン 25ppm	1. アドマイヤー顆粒水和剤㉔ 5,000倍(20g)	1. アドマイヤー顆粒水和剤㉔ 5,000倍(20g)	21日前まで	2回以内	200ℓ	1. 処理後は薬液が残らないようによく振り落とし、早めに乾く条件の時に処理する。					散布日 月日 散布量 ℓ
			2. モスピラン顆粒水溶剤㉔ 2,000倍(50g)	2. モスピラン顆粒水溶剤㉔ 2,000倍(50g)	14日前まで	3回以内									
⑨	9月上旬	べと病	1. オンリーワンフロアブル 2,000倍(50ml)	1. オンリーワンフロアブル 2,000倍(50ml)	2. モスピラン顆粒水溶剤㉔ 2,000倍(50g)	2. モスピラン顆粒水溶剤㉔ 2,000倍(50g)	14日前まで	3回以内	200ℓ	1. べと病が多い園地では、ベトファイター顆粒水和剤2,000倍(30日前まで、3回以内)を散布する。 ハダニの多い園地では、下記の殺ダニ剤のいずれかを単用で散布する。 ・コロマイト水和剤 2,000倍(7日前まで、2回以内) ・ダニオーテフロアブル 2,000倍(前日まで、1回)				散布日 月日 散布量 ℓ	
			2. モスピラン顆粒水溶剤㉔ 2,000倍(50g)	2. モスピラン顆粒水溶剤㉔ 2,000倍(50g)	14日前まで	3回以内									
⑩	9月下旬	べと病	1. アドマイヤー顆粒水和剤㉔ 5,000倍(20g)	1. アドマイヤー顆粒水和剤㉔ 5,000倍(20g)	1. テッパン液剤 2,000倍(50ml)	1. テッパン液剤 2,000倍(50ml)	前日まで	2回以内	200ℓ	1. べと病が多い園地では、ランマンフロアブル2,000倍(14日前まで、3回以内)を散布する。				散布日 月日 散布量 ℓ	
			2. スミチオン水和剤40 1,000倍(100g)	2. スミチオン水和剤40 1,000倍(100g)	21日前まで	2回以内									
⑪	10月上旬	べと病	1. ICボルドー48Q 50倍(2kg)	1. ICボルドー48Q 50倍(2kg)	1. ICボルドー66D 50倍(2kg)	1. ICボルドー66D 50倍(2kg)	—	—	250ℓ	この回以降、ICボルドー48Qに替えてZボルドー500倍(一、一)、又は、コサイド3000、2,000倍(一、一)を使用してもよい。但し、葉害軽減のためクレフロン100倍(一、一)を必ず加用する。 2. 露地栽培で袋をかけない品種ではICボルドー48Qに替えて、ストロビードライフフロアブル2,000倍(14日前まで、3回以内)を使用してもよい。 3. クビアカスカシバの多い園地では、パダンSG水溶剤㉔1,500倍(21日前まで、5回以内)を枝幹部に十分かかるよう丁寧に散布する。但し、果粉溶脱の恐れがあるので袋かけ後に散布する。 4. べと病が多い場合は、レーバスフロアブル2,000倍(7日前まで、3回以内)を散布する。但し、連用は避ける。				散布日 月日 散布量 ℓ	
			2. テッパン液剤 2,000倍(50ml)	2. テッパン液剤 2,000倍(50ml)	前日まで	2回以内									
⑫	10月下旬	べと病	1. ICボルドー48Q 50倍(2kg)	1. ICボルドー48Q 50倍(2kg)	1. ICボルドー66D 50倍(2kg)	1. ICボルドー66D 50倍(2kg)	—	—	300ℓ	1. べと病が多い園地では、ランマンフロアブル2,000倍(14日前まで、3回以内)を散布する。				散布日 月日 散布量 ℓ	
			2. スミチオン水和剤40 1,000倍(100g)	2. スミチオン水和剤40 1,000倍(100g)	21日前まで	2回以内									